

総面積
2,827ha

マツ
98ha
(3%)

スギ
896ha
(32%)



森が生み出す効果

心と身体に安らぎを与える木々。

まちの近くに森林がある小田原には、「木づかい」の文化が根を張っています。



市内には多くの
木工製作所がある

広がる森林 まちに息づく林業・ 木材産業の歴史

小田原市は、西部に箱根外輪山、東部に曾我丘陵の広がる、木々に囲まれたまちです。

まちの総面積の約4割は森林で、その内、スギ、ヒノキ等の人工林が約7割を占めています。そのほとんどは戦後植栽されたもので、現在は本格的な利用期を迎えています。豊かな木々は、澄んだ空気の源となるとともに、気温・湿度のコントロールや災害防止など、様々な効果をもたらし、まちの貴重な財産として小田原の環境を守ってきました。

また、林業・木材産業の歴史も長く、小

田原には、「川上」(木材を生産すること)、「川中」(木材を加工すること)、「川下」(木材を使うこと)という、木材資源をめぐる地域間サイクルが成立しています。まちのすぐ近くに森があり、原木の生産から木材の流通・加工までを一つのまちで行



小学校での木育授業
市が進める木育の一環として、小学校の児童たちが、小田原産ヒノキの間伐材でつくった机の天板を、自ら付け替えるという取り組みを行っています。

ヒノキ
1,834ha
(65%)

人工林面積の構成

「小田原市森林整備計画」
(2018年4月現在)



“木”のある暮らしを提案

地域産木材が市内各地で活用されているほか、子どもの頃から木を身近に感じることのできるまちづくりに向けて、「木育」を実践しています。



ウッドデザイン賞2016受賞*

「木」に関するモノ・コトを対象に、暮らしを豊かに、人を健やかに、社会を豊かにする優れた製品・取り組み等を表彰する「ウッドデザイン賞」を受賞。

*「小田原城天守閣」及び「きまつり〜森と木に包まれる夏〜」が受賞



ODAWARA POWER

菌部産業株式会社
製造企画

菌部 弘太郎 さん(写真左)
Kotaro Sonobe

無理なく無駄なく、 土に還るまで、 木を始末よく使いまわす

小田原漆器や間伐材を使った木工製品など、幅広く手がけています。小田原で生まれる木工品の魅力や木づかいの文化を知ってもらいたいと思い、子どもたちの見学や体験を受け入れています。学校給食用の椀も製作しています。木にまつわる多様な職業、木工品の魅力を広め、いつかは子どもたちが担い手、支え手になってくれたらと願っています。

うことができる点が、大きな特徴となっています。木を扱うプロと、木製品を使う人びとによって、「木づかい」の文化が育まれています。

伝統を受け継ぎ、 新しい分野に挑戦

小田原に継承されている木の文化といえば、寄木細工や小田原漆器などに代表される木工業があげられます。その歴史は平安時代、京都から木工職人が移り住んだことに始まるとされており、現在も木工産地として知られています。

また、木材利用の拡大は、間伐を推進し、森林の整備・保全が図られるのみならず、地球温暖化防止にも資することになります。こうした観点から、小田原市では、公共施設をはじめ、様々なシーンで地域産木材の活用を推進しています。また、間伐材を利用した什器等の商品開発も行われています。

さらに、子どもたちが木に親しむことの

できる環境をつくっていくため、誕生祝いに木製玩具を贈呈する「ウッドスタート事業」を行っているほか、小学校の授業で木を使うことの必要性を学習する「木づかいパイロット事業」や寄木細工体験教室等を実施し、「木育」に力を入れています。

木を育み、使うことで、さらなる地域振興と人びとの交流を生み出す動きが、生まれています。

